

いま改めて考えよう地層処分

高レベル放射性廃棄物の問題を将来に先送りしないよう
一緒に考えましょう

原子力発電に伴って生じる「高レベル放射性廃棄物」は、安定した地下深くに処分することが必要ですが、いまだその処分地が決まっていません。既に発生している以上、将来世代に先送ることなく解決しなければならない問題です。

この問題の解決に向け、「国が前面に立つ」との新たな方針の下、科学的に適性の高い地域（科学的有望地）を提示することとし、現在、専門家による検討が進められています。

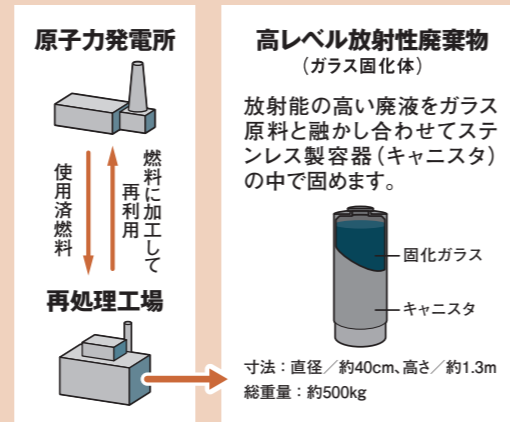
科学的有望地の提示は、これを契機に、地層処分について国民や地域の方々に理解を深めていただくことを目的とするものです。提示後直ちに調査の受入れをお願いするようなことはありません。

こうした点を含めて、地層処分についてご理解を深めていただくため、今秋以降も、全国的に様々な情報提供や意見交換等を行っていく予定です。皆さまのご参加をお願いします。

高レベル放射性廃棄物とは

原子力発電の運転に伴い、使用済燃料が発生します。わが国では、この使用済燃料を再処理し、取り出したウランやプルトニウムを再利用しつつ、廃棄物の量を抑える「核燃料サイクル」を推進する方針です。

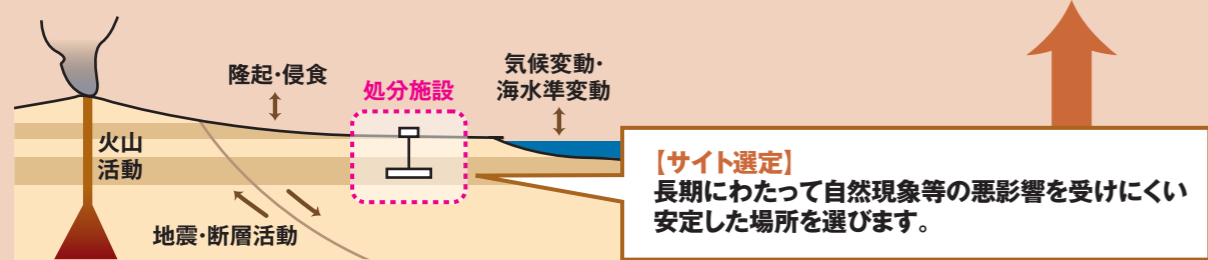
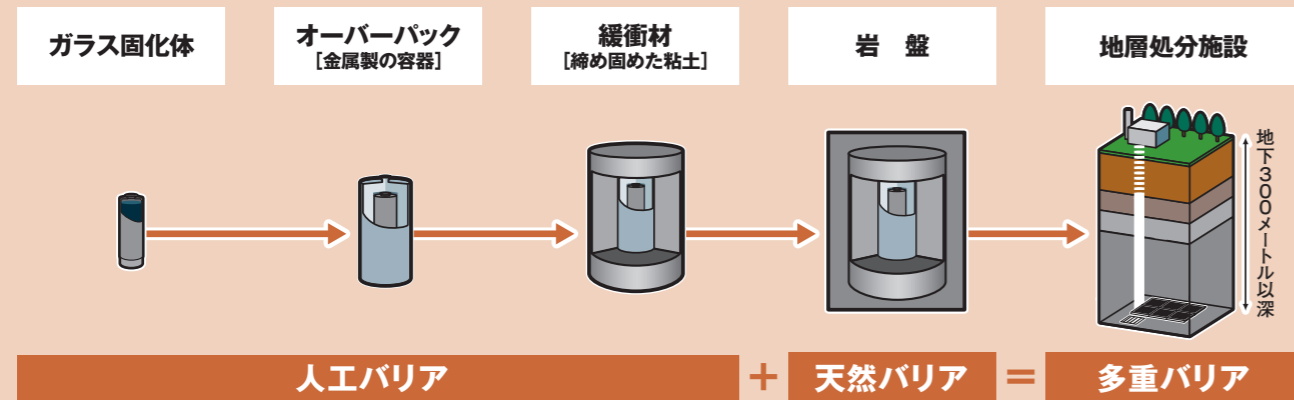
その再処理の際に生じる放射能の高い廃液を、固体化したものが高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)です。わが国には、既に、相当量が発生しています。



地層処分の仕組み

高レベル放射性廃棄物を安全に最終処分するために、国際機関や世界各国で様々な処分方法が検討されてきました。その中で、深い地層が本来もつ「物質を閉じ込める」という性質を利用し、人間の生活環境から安全に隔離する「地層処分」が、国際的に共通した考えとなっています。

わが国でも、ガラス固化体を厚い金属製の容器にしっかり格納した上で、地下深い安定した地層の中に埋設することとしています。



諸外国でも地層処分が採用されています



法律に基づき、地層処分の事業実施主体として原子力発電環境整備機構 (NUMO) が設立され、2002年から処分地選定の調査受入れ自治体を公募してきました。しかしながら、今に至るまで応募が得られず、調査に着手できていません。

政策の見直しを行い、平成27年5月に新たな方針を決定しました

国民や地域の理解を得られるよう、国が前面に立って取り組みます



地層処分を進めて行くためには、その必要性や安全性について、広く国民の理解を得ていくことが重要です。このため、国が前面に立って、様々な取組を全国的に進めていきます。

1 処分地選定に向けた第一歩として、科学的な観点から適性の高い地域を「科学的有望地」として示していく予定です。

火山国・地震国といわれる日本でも、地層処分に適した場所は広く存在することが、長年の継続的な研究の成果として示されています。他方で、日本のどこでも安全な地層処分が成立するわけでもありません。このたび、国は、処分地選定に向けた第一歩として、科学的な観点から適性の高い地域(科学的有望地)を提示することにしました。現在、そのための要件や基準の検討が、専門家の参加する審議会において進められています。

なお、科学的有望地は、あくまで「選定調査の対象」としての適性を示すものであって、その性質上、特定の地域をピンポイントで示すようなものにはなりません。

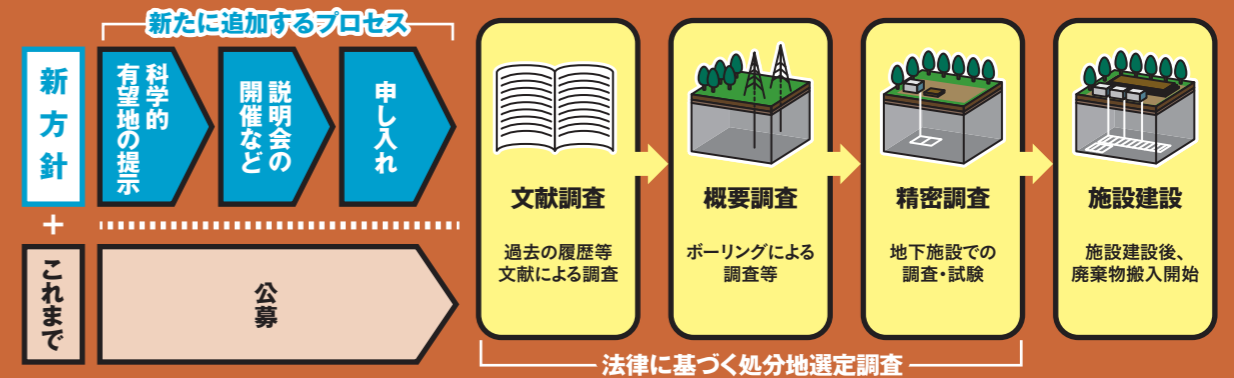
2 科学的有望地は、国民的な議論を始める契機として提示するものです。一歩ずつ、国民・地域の方々への理解活動に取り組みます。

科学的有望地の提示は、地層処分に対する各地域の適性を客観的に示しつつ、最終処分問題を国民全体が認識・理解いただくためのきっかけとするものです。

国とNUMOは、科学的有望地の提示後、まずは全国各地の方々に関心を持っていただき、理解を深めていただけることを目指して、理解活動を一歩ずつ進めていきます。

3 理解活動を通じて地域で理解を深めていただくことが何より重要です。そうした取組なくして、直ちに調査の受入れをお願いすることはありません。

説明や対話を重ねていく中で、関心を持って頂ける地域があれば、継続的に学んでいただける機会を提供・支援してまいります。こうした取組を通じ、地層処分に関する理解を深めていただいた上で、その進捗等を踏まえて、将来的には調査への協力について国から自治体に対してお願いすること(申し入れ)を目指しています。



こうしたことを含めて、この問題について一人でも多くの方々に理解を深めていただくことを目指して、今秋以降も、全国的に情報提供や意見交換等に取り組んでいきます。詳細については、裏表紙をご覧ください。

全国9都市で説明会を開催します

本年5～6月にかけて開催した全国シンポジウムに続き、第2弾として、地層処分の適性の考え方や、科学的有望地の提示など処分地の段階的な選定の進め方に関する全国シンポジウム「いま改めて考えよう地層処分～処分地の適性と段階的な選定の進め方～」を開催します。是非ご参加をお願いします。

開催地	開催日	時間	開催場所
東京	10月4日(日)	13:00~15:00	ザ・グランドホール(品川)
金沢	10月8日(木)	18:30~20:30	金沢都ホテル
札幌	10月9日(金)	13:00~15:00	ロイトン札幌
新潟	10月10日(土)	13:00~15:00	朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター
高松	10月15日(木)	18:30~20:30	かがわ国際会議場
大阪	10月16日(金)	13:00~15:00	梅田スカイビル
名古屋	10月24日(土)	13:00~15:00	名古屋商工会議所
熊本	10月28日(水)	18:30~20:30	ホテル日航熊本
岡山	10月29日(木)	13:00~15:00	岡山国際交流センター

参加無料

応募方法は
こちらから

<http://www.chisou-sympo.jp/>



地層処分シンポ

検索



「地層処分」知りたい・学びたいを応援します



【少人数ワークショップ(資源エネルギー庁)】

・NPO法人等(地域協力団体)と連携し、地層処分に関する様々なテーマについてグループワークなどを行う、少人数規模での一日ワークショップを行います。



【学習の機会提供事業(NUMO)】

・専門家や研究者を招へいし、勉強会や講演会の開催を支援します。
・地層処分事業に関連する施設等の見学や、原子力事業による地域振興例の視察を支援します。



【意見交換希望団体等の募集(NUMO)】

・希望する団体や学校等に対し、NUMOの職員等が訪問し、最終処分に関する情報提供や意見交換、出前授業等を行います。

これらの取組は、「地層処分ポータルサイト」において申込方法等を掲載しております。最新の情報等も随時掲載していますので、ぜひご覧ください。

もっと詳しく

<http://chisoushobun.jp/>



地層処分ポータル

検索

